

序 章 樂市樂座令研究の軌跡と課題

3

一 樂市樂座令研究の軌跡……………6

戦前 / 戦後

二 樂市樂座令研究の問題点……………13

シエーマ先行による抽象論 / 法令単体ないし法令・樂市場のみの比較 /

発給者の政治的立場に基づく評価

三 樂市樂座令研究の課題……………18

「樂市樂座令」「樂市場」のもつ地域的特性、その成立背景を個別具体的に探る

/ 「樂市樂座令」(樂市場)の展開過程、地域社会との接点を明らかにする /

一つの市場・史料として、都市法・市場法全体の中で相対化する

表 1 樂市樂座令一覧……………30

第 I 部 戦国大名と樂市令

第一章 今川氏と富士大宮樂市

35

一	富士大宮・富士氏と市場……………	38
	富士大宮の歴史と地理的環境 / 富士氏について / 富士大宮市の構造と展開	
二	富士郡における市場と交通……………	43
	地域市場の様相 / 富士大宮と市町 / 関と関役	
三	富士大宮楽市の実態……………	48
	「富士大宮毎月六度市之事」 / 「押買狼藉非分等有之旨申条」 / 「一円停止諸役、為楽市可申付之」 / 「井神田橋関之事」 / 「為新役之間、是又可令停止其役」	
表1	今川氏発給文書（流通・商業関係）……………	59
<b>第二章 徳川家康と小山楽市</b>		
一	小山と大給松平氏……………	64
	戦国期小山をめぐる歴史 / 大給氏の所領と性格	
二	戦国期徳川氏の流通支配と市場……………	67
	戦国期徳川氏の流通支配 / 遠江国内の地域市場	
三	小山楽市をめくって……………	72
	小山楽市令の解釈 / 小山楽市の実態	
表1	戦国期徳川氏の流通・商業関係文書一覧……………	84

表2 戦国期遠江国における地域市場……………89

第三章 松永久秀と樂市……………91

一 久秀の流通支配と市場……………92

奈良における市場の様相 / 久秀の都市・流通支配と市場 / 久秀発給文書からみた流通支配

二 「タモンイチャクノトキ」をめぐる……………97

史料の内容 / 奈良における取引手段の変化 / 史料の解釈 / 「ラクノトキ」とは何か

表1 松永久秀発給文書（流通・商業関係）……………96

第四章 後北条領国における樂市——世田谷・荻野・白子……………109

一 世田谷新宿……………113

中世における世田谷と吉良氏 / 大場氏と世田谷市 / 後北条・吉良氏の流通支配と宿・市場 / 世田谷新宿「樂市令」をめぐる

二 荻野新宿……………130

荻野について / 相模国における流通支配の展開 / 荻野新宿と「樂市」 / 荻野「樂市」と由緒

三 白子新宿……………144

白子と庄氏 / 白子新宿と樂市 / 「国法」と「樂市」

表1 後北条氏領国内の宿……………165

表2 武蔵国における後北条氏発給の流通・商業関係文書……………170

表3 世田谷吉良氏発給文書……………175

表4 相模国における後北条氏発給の流通・商業関係文書……………178

第Ⅱ部 織田氏と樂市令

第一章 加納樂市令再考

一 制札をめぐる研究史とその問題点……………186

二 樂市場と加納……………191

中世における加納と円徳寺 / 戦国期美濃国における大名権力と市場 /

永禄一〇年制札の分析

三 永禄一一年制札……………202

表1 中世美濃の市場……………212

表2 美濃国における織田権力の流通・商業関係文書……………214

表3 美濃国における豊臣・徳川権力の流通・商業関係文書……………216

## 第二章 金森樂市令の再検討

218

一 金森の歴史的環境……………221

町の構造 / 水陸交通の展開 / 金森と湖東の寺院・村々

二 金森と樂市……………227

「石山合戦」における金森 / 佐久間信盛「樂市令」の存在 / 史料の解

釈をめぐって / 湖東における流通構造と地域権力

三 樂市の展開……………236

金森市場の存在形態 / 市場法からみた金森と「樂市」 / 金森の変容

表 1 戦国期湖東の地域市場……………250

表 2 近江国における大名権力発給の流通・商業関係文書……………251

## 第三章 羽柴秀吉と淡河樂市

255

一 淡河樂市をめぐる研究とその問題点……………257

二 天正七年制札……………259

淡河の歴史 / 樂市と旅籠 / 播磨出兵における淡河樂市 / 由緒書か

らみた淡河——市場と町成立をめぐって——

三 天正八年制札……………274

淡河樂市と龍野町制札 / 播磨出兵における流通支配と市場の存在形態

表 1 秀吉権力発給の流通・商業関係文書……………291

## 第四章 安土樂市令再論

293

一 湖東の流通構造と権力……………297  
湖東における流通構造と商人・市場 / 地域権力の流通支配と文書  
二 安土山下町中掟書を読み直す……………301  
安土山下町をめぐる従来の理解 / 掟書の再検討

## 第五章 「楽座」とは何か——越前橋屋を事例として——

314

一 「楽座」の定義をめぐって……………318  
大山崎油座 / 北野西京酒麴座 / 四府駕輿丁呉服座  
二 橋屋と「楽座」……………324  
橋屋と唐人座・軽物座 / 「諸商売楽座」について / 「楽座」の背景  
三 「楽座」と座役銭……………331  
織田権力と座役銭 / 橋屋と座役銭  
四 豊臣権力の座政策——「破座」「無座」——……………336  
表 1 織田権力と座……………348  
表 2 「橋栄一郎家文書」……………352  
表 3 豊臣権力の座政策……………357

終章 「樂市樂座令」再考

——中近世移行期における歴史的意義をめぐって——

360

一 戦国大名と樂市……………360

富士大宮 / 小山 / 多聞 / 世田谷・荻野・白子 / 戦国大名・地

域社会にとつての「樂市」

二 織田氏と樂市・樂座……………368

加納 / 金森 / 淡河 / 安土 / 越前(足羽三カ荘) / 織田氏

「樂市令」をめぐって

三 樂市の変容——歴史と記憶……………378

富士大宮 / 小山 / 世田谷 / 荻野 / 金森 / 淡河 / 安土

付 表 中近世移行期における市場法

あとがき

初出一覧

索引

# 樂市樂座令の研究



## 序章 樂市樂座令研究の軌跡と課題

### はじめに

日本中世社会において、一五世紀末から一七世紀初頭の、いわゆる戦国・織豊期の商品流通と権力による支配のあり方をめぐっては、戦前より膨大な研究蓄積がある。

通史的な理解によれば、当該期は、室町幕府の中央集権体制と荘園制衰退による、京都・畿内へむけた求心的物流網が相対的地位を低下させ、地方ではこれに代わる形で、戦国大名による自立的な国家（領国）が形成され、権力の需要に応じた手工業製品の生産・売買が主流となる。これをうけて各地にも新たな市場が勃興し、これを結ぶ幹線道路や河川を通じて、一国ないし数郡規模で展開するローカルな物流網（地域経済圏）が構築される。いわば、京都・畿内と地方の社会変動は、まさに表裏一体の関係にあったといえる。<sup>(1)</sup> そうした中で、各地域の権力は独自の支配秩序に基づき、城下町建設や市場の保護・交通整備など数々の政策を打ち出し、広域のかつ安定的な領域支配の実現をめざしていく。

ところが以降の通史を詳細に紐解いていくと、そうした地域ごとの異なる歴史展開はあまり注視されず、畿内近国を基盤に台頭した「天下人」織田信長・豊臣秀吉を主役として、各地の流通構造が列島規模で統一再編されていく、という筋道で説明されるのが一般的である。こと中世から近世への移行段階である当該期は、信長の登

場をきつかけに、中世的支配体制の終焉と、近世化への萌芽を説く傾向がつよい。

すなわち局地分散的な物流網の下で、排他的独占権を有した同業者集団である「座」が、やがて円滑な物流を阻害する要因として位置づけられるようになる。結果、その排除を求める声の高まりをうけた信長が、これらの否定・解体と物流再編の動きを加速させ、近世封建制社会成立への途を開くとするストーリーである。その中で、かかる社会的希求を実現させた代名詞として語られる政策が、日本中世における流通政策の最終形態ないし完成型とも比喩される、いわゆる「楽市楽座令」である。これまでに確認されている関連史料をまとめた表1（章末参照）から、同法令の特徴は、次のとおりに集約することができる。

まず、①「楽市」「楽座」いずれかの文言を含み（「十楽」「楽売楽買」というイレギュラーな事例もある）、②都市や市場（楽市場）を対象として、③同所における諸役免除・座否定、平和保障を認め、④新城下町の建設や荒廃した市場の復興を内容としたものが多い。

現存する史料では、⑤一六世紀初頭からの約一〇〇年間に、関東・東海・北陸・近畿地方を中心に分布し、⑥紙本・木札のいずれかを発給形態としながら、⑦現在までに二八通が確認されている。

また、かつて網野善彦氏が論じたように、法令が施行された空間は、諸役負担や中世的権威秩序である座の専売権など、あらゆる権力が及ばないアジール（聖域）であると考えられてきた。

ここから同法令は「中世商業のひとつのしめくくり」をなす「大名の流通支配実現における最終措置」として、<sup>(2)</sup>都市と商工業者の一元的支配をめざす統一政権の革新性や特異性を投影した、近世社会移行への原動力となる画期的な政策として戦前より高く評価され、今なお、日本中世流通史研究をはじめ、商業史・都市史・交通史などの関連分野でも、同法令の分析と評価は不可欠のものに位置づけられている。それは当該期を扱う概説書の中で、同法令が必ず立項されることから明らかで、<sup>(3)</sup>かかるテーマについては一見すると、すでに論じ尽くされたかの

ように捉えられる向きもある。

だが、これまでの研究の多くが、いわゆる戦前以来の古典的理解を前提として構築された議論であるという点では、今なお解決すべき課題は山積しているといわざるをえない。それはすなわち、楽市楽座令を、一個の独立した法令として成立・機能するものと位置づけ、同時代における他の流通政策や交通網との関わりなど、地域経済との相関関係についてはこれを等閑視している点にある。

そのため、戦国大名による領域支配や流通政策全体の中で、法令や、そこで成立した「楽市場」という空間が、地域ごとにいかなる意義をもち、中近世移行期の社会変動にどう位置づけられるか、という点は必ずしも明らかにされていない。ゆえに結果として、いずれの研究も「自由」「理想郷」「旧態破壊」の実現、というありきたりかつ抽象的な評価に落ち着いてしまっているのが現状といえよう。

これは一つに、個別具体的な商品流通や商工業者の活動など、地域社会における物流の展開過程や経済構造の変遷を、関連文書群から中長期的に辿ることのできる事例と違い、「楽市楽座令」という政策そのものが、特定の都市や市場内部を対象に、単発的あるいは一時的なものとして実施（発給）されたことに原因がある。かかる傾向から、近年の研究では、統一政権の性格を前提とした抽象的・画一的評価に落ち着くのではなく、また「楽市楽座令」の対象となる空間のみに着目せず、周辺地域も含めて、考古学や歴史地理学など他分野の成果を取り入れた学際的視点からこれを見直す動きが進められている。

このように同研究をめぐるのは、他分野の研究進展に即した史料批判を含め、各法令や市場のあり方の根本的見直しなど、いまだ多くの課題が残されている。

本章はこうした動向を出発点として、まず戦前以来の「楽市楽座令」をめぐる研究成果を改めて振り返ること、そこに内在する問題点を浮き彫りにしていく。そのうえで、新たな視点から研究を進展させるため、楽市楽

座令研究に求められる課題とその解決方法を具体的に提示し、中近世移行期論（通史）への位置づけを見通すこととしたい。

## 一 樂市樂座令研究の軌跡

### （一）戦前

「樂市樂座令」研究の嚆矢は、確実なものでおよそ二〇世紀初頭にまで遡る。それまで、戦国・織豊期の流通政策については、主に織田・豊臣の天下統一に至る政治過程を描く過程の中で紙幅が割かれていた。

とりわけ注目が集まったのは、彼ら統一政権により、革命的進歩を遂げたとされる交通政策、すなわち「関所撤廃」であり、これに旧態破壊と国家統一の社会的偉業という軒並み高い評価が与えられてきた。<sup>(4)</sup> ことから権力そのものについても、経済と軍務に卓越し、徹底的な実力行使のもと、新時代を切り拓いた時代の革命児と位置づけられたが、肝心の「樂市樂座令」については史実をなぞるのみで、具体的論証はほとんど行われなかった。<sup>(5)</sup>

そのため平泉澄氏は、これを「従来の説明未だ不十分」と批判したうえで、樂市は「（イ）課税免除（ロ）自由商賈の二つの性質を具有する市」であり、樂座は「樂市即ち自由市場に於ける占席の自由にして、特権の拘束なきを意味する」ものとして、初めて同法令に定義づけを行った。<sup>(6)</sup>

その後、平泉氏の指摘をうけて、近世城下町成立の視点から具体的な法令の分析を進めたのが小野晃嗣氏である。氏は、同法令が城下町における商業的要素の再編、とりわけ市場における座の撤廃と課役免除による自由商業を確立し、これを城下へ集約させるものとした。そのうえで、都市史における「樂市令」の意義にも注目し、法令が城下町建設の盛んな一六世紀に限定して現れた事実から、それが新城下建設のみを目的とした政策であり、新都市興隆の気運が「樂市令」を生み出し、近世社会形成を促したと指摘した。<sup>(7)</sup>

## あとがき

本書は、二〇一一年（平成二三）一二月に東北学院大学に提出した学位申請論文「織豊期大名領国における流通支配と経済構造の研究」（主査・七海雅人先生、副査・菊池慶子先生、池享先生、仁木宏先生）のうち、第一部の楽市楽座令に関する部分を再構成し、日本学術振興会特別研究員（PD）として取り組んだ成果を含めて、加筆・修正のうえ一書としたものである。

私が歴史に興味を持ったきっかけは、小学校の社会科の授業であった。そこで、天下統一を目前に、明智光秀の謀反に斃れた織田信長のドラマチックな最期に惹かれ、且つ「のぶ」「なが」という、自分と似た名前をもつ点に親しみを覚えた。今振り返ってみても、何とも子どもらしい可笑しい発想である。高校は迷わず文系に進み、日本史の授業だけは机にかじりつくようにのめり込んだ。ちょうどそのころ放送されていたNHK「その時歴史が動いた」を見るうちに、将来は日本史を調査研究する職（学芸員）に就きたい、と志すようになった。

地元の東北学院大学に進学すると、史学科で戦国時代を専門に学ぶべく、学部三年は東北中世史研究の泰斗である大石直正先生、翌年は大石先生の退官により、新たに赴任された七海雅人先生のゼミにそれぞれ所属した。卒業論文の題材は迷わず織田信長で、都市政策をテーマに選んだが、内容は英雄論に終始した散々な出来であった。その後、周りの友人が揃って就職する中、学芸員の夢を捨て切れない自分は、研鑽を積むべく、大学院へ進学し、引き続き七海先生にご指導をお願いした。

修士課程では、かねてより「本能寺の変」を調べたいと考えていたが、先生から「犯人捜しをするようなテーマは研究ではない」と釘を刺されたことを覚えている。悩んだ挙句、卒業論文で論じ残した「楽市楽座令」に

テーマを絞ることにした。振り返れば、これが現在の自身、そして本書の完成に結びつく転機だったように思う。当時の七海ゼミは、院生が私と渡邊歩氏の二人のみで、講義は先生の研究室で「看聞日記」を講読する小さな勉強会に近かったが、自分にとっては、本格的に史料を読むことの難しさと楽しさを同時に味わえた時間でもあった。渡邊氏とは修士課程以降、別の道を歩む形となったが、今でも学会などで再会した折は、仕事や学問など互いの悩みを遠慮なく打ち明けられる、よき研究仲間である。

院に進学して間もなく、学内の学会報告デビューでは、小林清治先生と大石先生が、当日揃って最前列に座られた。高名な先生を前に終始緊張し、質問にどう答えたかも覚えていないが、後日、小林先生から激励のお手紙を頂戴したことは、私にとって大きな心の支えとなった（本書第Ⅱ部第一章は、この時の報告が基礎にある）。

また、大学院では、入間田宣夫先生を講師にお招きし、佐々木徹・三好俊文・若林陵一・照井貴史・島津諭志氏ら大学OB・諸先輩方との研究会（入間田ゼミ？）も毎週金曜日に開かれた。各々自由なテーマで報告し、時に夜半まで議論が白熱する会は、学部上がり間もない浅学の自分には、聞き慣れない言葉が飛び交い、着いて行くのがやつとな状態だった。ただ、そうした厳しさの中で、先行研究に学び、史料から議論を構築する「研究」の基礎を叩き込まれたといっても過言ではない。本書第Ⅱ部第五章は、ここでの議論を基に構築したものである。そのほか、古文書調査や民具・板碑整理など、「生」の史料と向き合う機会も増え、充実した日々を過ごした。また、早くから七海先生には「学芸員を目指すなら、ぜひ学振申請も狙いましょう」と後押しされていたが、目立った業績もない当時の自分には、実感が湧かなかつた。だが、博士課程に進み、博論を書き上げていく過程で、これまで取り組んできた研究をより深めたいという気持ちも強くなっていった。

そこで一念発起し、二〇一三年四月に、日本学術振興会特別研究員（PD）に採用された。査読論文が二本しかなかつたことを考えると、いま振り返っても本当に信じられないという思いである。受入先は、博士論文の副

査をお願いしたつながりもあり、戦国・織豊期の都市史研究を専門とする仁木先生にお願いし、大阪市立大学で研究に従事することとなった。

東日本大震災の余震が続く中、実家を離れることには一抹の不安もあり、新天地・大阪での生活は慣れない面も多く、当初は思うような成果を出せなかった。だが、畿内近国を主なフィールドとする自分にとって、例会や勉強会が盛んな関西地方はまさに「本場」に等しく、恵まれた環境で三年間、のびのびと研究に没頭できた。

また、天野忠幸・新谷和之・川元奈々・徳満悠各氏をはじめ、OB・院生が参加する仁木ゼミの研究会では、厳しくも熱い議論のやり取りに圧倒されつつ、専門分野を近しくする方々から多くの刺激を受けた。たった数カ条しかない法令一つの解釈でも、一字一句を疎かにせず、その背景から情報をどれだけ抽出できるか。本書の軸とする視点の多くは、ここで学び培われた。現地を自らの足で探訪し、くまなく見て廻り、史料をとにかく読み込む。論文を書く上で当然ともいえるこれら一連の作業がいかに重要かも、この場で改めて実感させられた。

PD採用終了後は、静岡市歴史文化課に奉職した。同課では、徳川家康・今川氏・東海道をテーマの柱とした施設（博物館）建設事業が進行中で、私はその施設整備係に配属された。ひとくちに博物館建設と言っても、展示ストーリーの検討から展示資料の選定、さらには歴史文化を市民に浸透させる各種催しや、教育普及に関わる学校との連携事業など多岐に渡り、ハードな毎日を過ごした。それまで学問の世界に身を投じてきた自分が、いざ社会に飛び出て、研究成果を還元すること、歴史の面白さを分かりやすく伝えることの難しさを実感した一年でもある。開館まで携わることはできなかったが、博物館を一から「作る」という仕事は、滅多にできない貴重な経験であった。同僚の水野伍貴氏とは、互いに知恵を出し合いながら、同じ研究者という立場で議論し合えたことも、よき思い出である。

現在は宮城に戻り、仙台市博物館で、伊達政宗を柱とする展示や教育普及事業など、日々目まぐるしく回る

「現場」での仕事に携わっている。上司の菅野正道氏や大学OBである佐々木徹氏からは、博物館活動のいろはや郷土史の魅力など、地域に根差した視点で、歴史を学び伝える仕事の奥深さを学ばせていただいている。

本書はこうした複雑な歩みを経たもので、他にも逐一お名前を挙げることはできないが、多くの方々からのご助言や支えがあつて形となつた。とくに七海先生と仁木先生には、感謝してもしきれない。

七海先生には、日本史の基礎知識すらも危うい「お荷物」の私を抱え、結果的に博士課程修了まで長くご指導をお願いする形となつてしまった。今もお会いして「論文の方はどうですか」「活躍していますね」など、激励のお言葉を頂戴するたび、遅筆で成果公表もままならない自分は、先生のいう一人前の研究者として独り立ちできているか、不安な気持ちに駆られる。

仁木先生には、目立つた業績もない余所者の私を研究員として受け入れ、多様な視点と豊富な知見から、懇切丁寧にご指導いただいた。思うような成果が出せずに悩んでいた際は、親身に相談に乗っていただき、PD採用終了時には、これまでの研究をまとめて早い段階で世に問うべきとの勧めから、出版社紹介のご高配まで賜った。

両先生からは常々、信長や織田権力に偏らず、中近世移行期という広い視点で研究を位置づけること。研究成果を活かし、楽市楽座令に特化せず、広く浅く、次へと繋がるテーマを見つけるようにとの叱咤激励を賜っている。ともすれば狭い視野で物事を捉え、選り好みしがちな自分にとって、両先生のお言葉は、今なお大きな励みであり、この場を借りて改めて御礼を申し上げたい。本書が、その学恩に応えられるものとなっていればよいが。

また、厳しい出版状況の中、本書の刊行をお引きいただいた思文閣出版の原宏一氏、ならびに編集担当の三浦泰保氏には心から御礼申し上げます。当初、早くに刊行依頼をお引き受けいただいたものの、一書にまとめる時間が中々取れないまま、翌年に見送る形となり、今日まで長くご迷惑をおかけしてしまいました。

本書収録論文の半数以上は未発表の新稿からなる。文章能力のなさや勉強不足も相俟つて、思うように活字化

できず、足踏み状態が続いたのは自分の不徳の致すところである。学生の折は、単著の出版など夢物語としか思っていないかったが、無事こうして上梓できることをまずは喜びたい。

最後に私事ではあるが、大方の期待？を裏切り、趣味の延長線上にも等しい、歴史を専門に学ぶ道に進むことを許してくれただけでなく、大学院修了後も大阪・静岡・宮城と各地を転々とし、未だ安定した職に就けず迷惑をかけている私を、長く見守り続けていくくれる両親と家族に、感謝を込めて本書を捧げたい。

二〇一七年一〇月

長澤 伸樹

〔付記〕 本書刊行にあたっては、日本学術振興会科学研究費補助金（研究成果公開促進費、J P 1 7 H P 5 0 8 0）の交付を受けた。

初出一覧

序章 原題「樂市樂座令研究の軌跡と課題」〔都市文化研究〕一六号、二〇一四年

第一部

第一章 原題「富士大宮樂市令の再検討」〔年報中世史研究〕四一号、二〇一六年

第二章 原題「小山樂市令をめぐって」〔六軒丁中世史研究〕一七号、二〇一七年

第三章 原題「松永久秀と樂市」

（天野忠幸編『松永久秀——歪められた戦国の「梟雄」の実像——』宮帯出版社、二〇一七年）

第四章 新稿

第二部

第一章 新稿

第二章 新稿

第三章 原題「羽柴秀吉と淡河樂市」〔ヒストリア〕二三二号、二〇一二年

第四章 新稿

第五章 新稿

終章 原題「『樂市』再考——中近世移行期における歴史的意義をめぐって——」〔市大日本史〕一八号、二〇一六年

本書収録にあたり、適宜加筆・修正をおこなった。



小山 24, 62~4, 66, 67, 71~6, 103, 104,  
190, 204, 302, 362, 363, 378, 380, 381,  
390  
小山城 65~7

### さ行

山陽道  
257, 259, 262, 264, 266, 267, 270, 275, 371  
信貴山城 91, 92, 95, 99, 105, 364  
志那街道  
218, 220, 221, 224, 225, 240, 370, 383  
品川 115, 121, 126, 129  
芝 116, 125, 129  
白子  
24, 146, 147, 154, 304, 365~7, 377, 378  
白子郷 120, 144, 145, 148, 149  
白子新宿 111, 126  
世田谷 24, 114~9, 121, 124~6, 128~  
130, 138, 144, 150, 154, 304, 365~7,  
378, 381, 382, 386, 390  
世田谷新宿  
21, 111, 113, 117, 126~8, 132  
善立寺 224, 383

### た行

大石寺 43, 44  
当麻 133, 136, 140, 146  
高萩 123, 127, 139  
龍野 263, 274~6, 278~80, 282, 372  
多聞 24, 190, 367, 377, 390  
多聞山城  
91~5, 97, 99, 101, 102, 105, 364, 365  
東海道  
39, 45, 46, 114, 133, 226, 240, 265, 360, 361  
東山道 197, 218, 220, 231, 237, 240, 298,  
307, 370, 383  
東大寺 91, 94, 98, 99, 103, 364

### な行

中道往還  
39, 41, 44, 45, 47, 50, 51, 360, 361, 380  
根石原 68, 73, 74, 363

### は行

八幡 239, 240, 297, 303~10, 373, 374,

383, 385, 386, 391  
八幡山下町 302, 378  
富士大宮 24, 35~54, 74, 104, 190, 204,  
302, 360~3, 367, 377, 379, 380, 390  
本宮浅間大社(浅間大社)  
37, 39~42, 44, 49~51, 54, 360, 361, 379

### ま行

蒔田 115, 125, 129  
三木 233, 259~62, 264, 266~9, 272,  
274~82, 371~3, 384  
御薮 188, 189, 195  
守山 218, 220, 225, 229~33, 237, 240,  
259, 297, 298, 370, 374, 383, 384

### や行

矢倉沢往還  
114, 116, 118, 126, 128, 130, 135  
社町 271~3, 279, 372  
野洲 22, 220, 237, 297, 298, 370, 371, 374  
野洲川 224, 225, 237, 370, 371  
吉原 39, 45, 46, 48, 361

### ら

楽市場 185~91, 194, 195, 198, 201, 202,  
205, 256, 259, 263, 265, 368, 369

317, 323, 327, 335, 339, 360~92  
楽市場 4, 5, 10, 12, 13, 15, 16, 19, 20, 22,  
23, 38, 49, 52, 53, 61, 72, 73, 76, 111,  
185, 188~90, 200, 219, 256, 259, 307  
楽市楽座(令) 4~24, 99, 187, 202, 203,  
205, 206, 228~30, 232, 233, 303, 314,  
315, 369, 370  
楽売楽買 4  
楽座(令) 4, 6, 7, 11, 15, 18, 24, 314~20,  
322, 323, 326~9, 331, 333~5, 338~40,  
360, 368, 375, 376, 387  
六斎市 40, 52, 74, 110, 111, 114, 120,  
128, 134, 136, 137, 147, 151, 262, 270

## 【地名】

### あ行

英賀 267, 268, 278  
安土 110, 186, 203, 206, 238, 240, 296~  
8, 302, 303, 305~9, 369, 374, 378, 385,  
386, 390, 391  
安土山下町  
10, 20, 23, 61, 220, 235, 239, 293, 301, 373  
安土城 13  
有馬街道 257, 259, 264, 266~8, 270,  
272, 280, 371, 394  
石寺 297, 370  
石寺新市 234, 256, 275, 298, 299  
潤井川 39, 43, 45, 360, 380  
円徳寺 185, 188, 189, 191~5, 369  
淡河 19, 74, 206, 230, 255~74, 276, 277,  
280~2, 371~3, 384, 385, 390  
大井川 64~7, 72, 75, 76, 362, 363  
萩野 24, 111, 132~6, 138~44, 154, 304,  
365~7, 377, 378, 382, 383, 386, 390  
萩野新宿  
127, 130~2, 135, 136, 138, 142, 259  
小田原 112, 116, 117, 128, 129, 133, 134,  
136, 139, 148, 381

### か行

柏尾 276, 278~80, 372  
金森 8, 22, 103, 186, 188, 201, 203, 206,  
218~21, 224~36, 237~42, 259, 297,  
298, 303, 306, 307, 309, 369~71, 374,  
375, 377, 378, 383, 384, 386, 390  
加納 8, 19, 38, 74, 103, 110, 186~95,  
198, 202, 205, 206, 259, 303, 309, 368,  
369, 374, 375, 377, 378  
上小田中 115, 120, 121, 124, 125  
弘明寺 21  
黒野 198, 304, 392  
桑名 9  
神戸 196, 197, 368  
興福寺 91, 93, 94, 96, 97, 101, 102, 236

富士兵部少輔 35, 36  
別所氏 260~2, 371  
北条氏綱 115, 146  
北条氏直 130, 134, 137, 142, 149, 259, 366  
北条氏規 145, 146, 149  
北条氏政 113, 128, 133, 148, 366, 382

#### ま行

松田氏 131~3, 141, 142, 366, 382  
松田康長(松田兵衛大夫)  
131, 133, 143, 144  
松永氏 24, 62, 360, 377  
松永久秀 91~7, 99, 102~5, 364, 365  
三好氏 94~6  
三好長慶 91, 95, 106  
毛利氏 260, 268, 280, 372~3

#### ら行

六角氏 138, 234, 237, 238, 296~301,  
305, 306, 370, 371, 373

### 【事項】

#### あ・か・さ行

石山合戦 218, 219, 232, 233, 268, 370  
軽物座 324~9, 332~9, 375  
座役銭 326, 328~40, 375, 376  
寺内町 8, 69, 188, 194, 218~21, 239,  
241, 268, 298, 370  
十楽 4, 9  
諸役 8, 9, 11, 12, 21, 22, 35, 43, 45, 49,  
51~3, 62, 65, 68~70, 73~6, 111, 113,  
119, 124~7, 129, 131, 139, 142, 147,  
149, 151, 153, 187, 194, 197~201, 204,  
205, 228, 229, 232~5, 237, 239~41,  
255, 262, 265, 266, 272, 275, 282, 293,  
303, 314, 322, 325, 330, 336, 338, 363,  
369, 371, 372, 381, 384~8, 392  
新宿 110~2, 116, 118~21, 123~6, 128  
~30, 135, 136, 139~45, 147, 149, 151,  
152, 154, 365, 366, 382

#### た行

伝馬 11, 62, 70, 71, 110~2, 114, 119,  
121, 123, 126, 127, 140, 141, 144, 151,  
240, 365, 381, 383  
唐人座 325~9, 332~5, 339, 375  
徳政 68, 97, 201, 266, 338

#### は・ま・ら行

破座 316, 317, 338, 340, 376, 387  
無座 316, 317, 338, 340, 376, 387  
楽 9, 10, 12, 14, 98, 99, 102~5, 188, 189,  
202, 364, 365, 376, 388  
楽市(令) 4, 6, 7, 9, 10~2, 14~6, 18~  
24, 35~8, 40, 42, 45, 48~54, 61~4, 72  
~7, 91, 92, 97~9, 102~5, 109~14,  
118~21, 124, 126~32, 134~42, 144,  
145, 149~52, 154, 185, 186, 188~91,  
194, 198, 199, 201, 203, 204, 206, 218~  
21, 228~42, 255~9, 262~71, 273, 275,  
280, 282, 293~305, 308~10, 314, 316,

# 索引

## 【人名】

### あ行

朝倉氏 324, 329, 330, 332, 335, 375  
足利義昭 92, 232  
池田元助 199, 205, 206, 259  
池田輝政(照政・三左衛門)  
199, 206, 259~61, 281, 384  
今川氏真 35, 39, 66, 361  
今川氏 17, 24, 36~41, 43, 44, 46~53,  
62, 64, 65, 71, 72, 74, 138, 360~2, 377,  
380  
今川義元 39, 43, 46  
上田氏 152~4  
大場氏 116, 117, 129, 381  
大給真乗(松平左近丞) 65~7, 362  
大給氏 63, 65~7, 72, 76, 362, 363  
織田氏 18, 22~4, 53, 62, 73, 109, 196,  
267, 277, 298, 300, 303, 329, 330, 368,  
370, 373~5, 377, 378, 383, 390  
織田信長 3, 4, 8, 11~4, 16, 37, 61, 63,  
73, 75, 92, 95, 98, 105, 185, 186, 189~  
91, 193, 194, 196~9, 201~6, 218~20,  
225~8, 230, 231~4, 239~42, 255, 256,  
259, 260, 263, 268, 274, 278, 282, 293,  
295~7, 301~3, 305, 306, 308~10, 314  
~8, 320~7, 329, 332~5, 339, 368~71,  
373, 374, 376~8, 383~6

### か行

京極高次 309, 385  
吉良氏 114~8, 121, 124~9, 150, 154, 366  
吉良頼康 115, 116, 124  
後北条氏 21, 24, 47, 109, 111, 112, 114

~8, 120~4, 126, 128~32, 136~42,  
144, 145, 147, 150~2, 154, 360, 361,  
365~7, 377, 378, 381~3

### さ行

斎藤氏189~92, 194~6, 198, 202, 368, 369  
佐久間信栄 236, 259, 383  
佐久間信盛  
22, 227~30, 236, 237, 259, 370, 371, 377  
柴田勝家 105, 229, 232, 259, 302, 327~  
37, 339, 375, 376  
庄氏 146, 149

### た行

武田氏 39, 40, 42, 47, 52, 66, 67, 71, 72,  
75, 76, 139, 279, 360~3, 379~81  
武田信玄 65  
橘屋 323~6, 328, 330, 331, 333, 334,  
336, 337, 339, 375  
橘屋三郎五郎(三郎左衛門尉)  
259, 325~7, 330, 337  
筒井氏 91, 94  
筒井順慶 103  
徳川家康 61~71, 73, 75, 76, 116, 134,  
147, 192, 279, 362, 363, 379~82  
徳川氏 17, 24, 61~7, 70~6, 360, 362,  
363, 378, 380  
豊臣氏 296, 375  
豊臣(羽柴)秀次  
133, 239, 302, 309, 310, 385, 386  
豊臣(羽柴)秀吉 3, 8, 11, 16, 20, 53, 98,  
116, 117, 134, 141, 148, 151, 230, 255~  
80, 282, 302, 316, 318, 336, 338, 366,  
371~3, 376, 377, 379, 384, 385

### は行

富士氏  
36, 37, 39~41, 47, 49~53, 361, 362, 379

◎著者略歴◎

長澤伸樹 (ながさわ・のぶき)

1983年山形県生。東北学院大学大学院文学研究科アジア文化史専攻博士後期課程修了，博士（文学）。日本学術振興会特別研究員（PD），静岡市観光交流文化局歴史文化課学芸員を経て，現在仙台市博物館嘱託。

〔主要論文〕

「材木調達からみた柴田勝家の越前支配」（『織豊期研究』13，2011年）

「羽柴秀吉と淡河楽市」（『ヒストリア』232，2012年）

「信長の流通・都市政策は独自のものか」（日本史史料研究会編『信長研究の最前線』2014年）

「「楽市」再考——中近世移行期における歴史的意義をめぐって——」（『市大日本史』19，2016年）

らくいちらくざれい けんきゅう  
楽市楽座令の研究

---

2017(平成29)年11月25日発行

著者 長澤伸樹

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-533-6860(代表)

---

装幀 小林 元

印刷 株式会社 図書印刷 同朋舎  
製本

---

© N. Nagasawa

ISBN978-4-7842-1908-7 C3021